

令和7年度 県政モニターアンケート調査結果

テーマ：ワンヘルスについて

福岡県 保健医療介護部 ワンヘルス総合推進課

【調査目的】

今、地球上では、人口増加、森林開発や農地化などの土地利用の変化によって、自然環境の悪化や地球温暖化などの気候変動が生じています。

また、人が今まで立ち入らなかった自然の奥地にまで侵入することなどで、野生動物との接触の機会が増え、新型コロナウイルス感染症をはじめとする人と動物の双方に感染する「人獣共通感染症」が増えています。

こうした問題に対応するためには、人と動物の健康と環境の健全性を一つの健康と捉え、一体的に守っていく「ワンヘルス (One Health)」の考え方が重要です。この考え方は、世界的に広がっており、「G7 サミット」など国際間の枠組みでも合意されています。

県では、みやま市に全国初のワンヘルスの実践拠点となる「ワンヘルスセンター」の整備に向けて準備を進めるなど、全国に先駆け、ワンヘルスの推進に取り組んでいます。

今後、より一層の取組を進めるにあたり、「ワンヘルス」について皆様の御意見をお聴かせいただき、事業及びその評価などの参考とさせていただきます。

※端数処理の関係で、割合の合計が100%にならない場合があります。

1 令和7年度第5回県政モニターアンケート調査

(概要)

モニター数： 398人

回答数： 355人

回収率： 89.20%

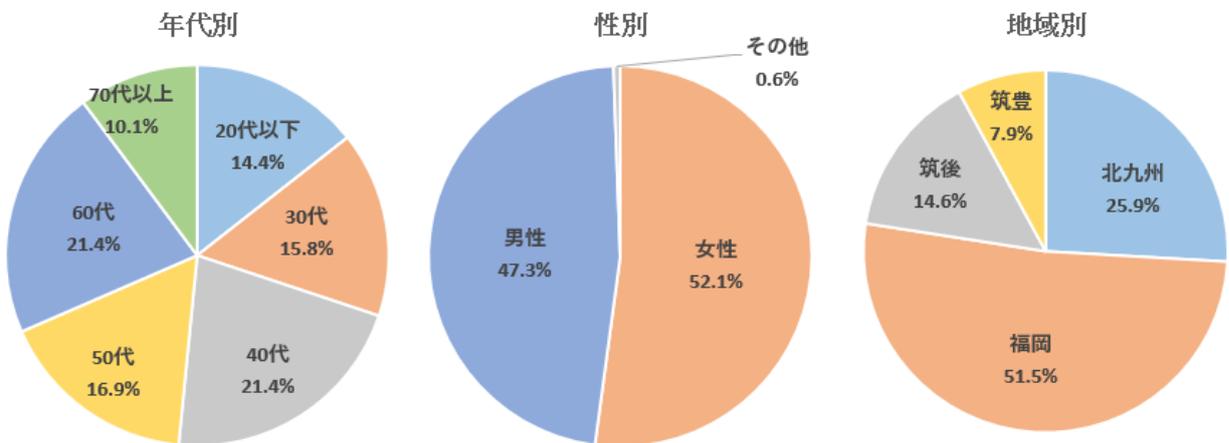
実施期間： 令和7年11月7日～令和7年12月4日

(回答者構成)

(R7：n=355)

項目	計		北九州	福岡	筑後	筑豊
	人数(人)	構成比				
総数	人数	355	92	183	52	28
	構成比		25.9%	51.5%	14.6%	7.9%
性別	女性	185	48	97	27	13
	男性	168	42	86	25	15
	その他	2	2	0	0	0
年代別	20代以下	51	12	27	8	4
	30代	56	15	29	7	5
	40代	76	19	39	12	6
	50代	60	17	31	8	4
	60代	76	21	34	13	8
	70代以上	36	10.1%	8	23	4

回答者構成



n=355

2 調査結果

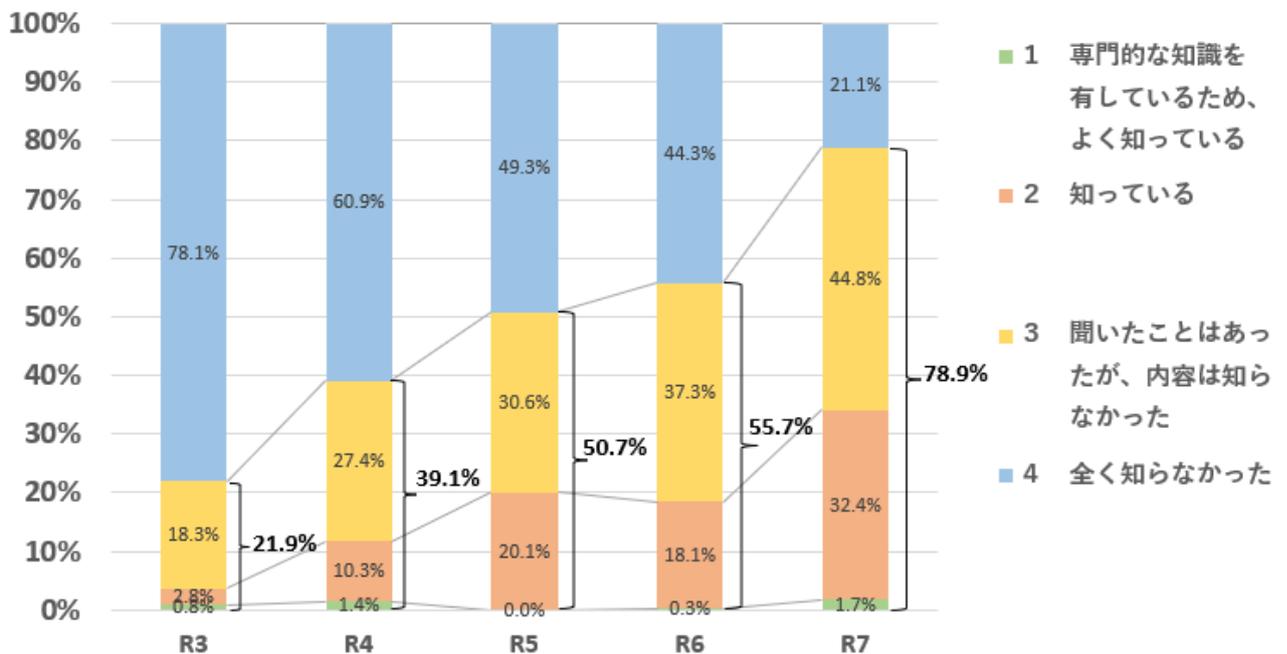
問1 あなたは、「ワンヘルス」とは何か知っていましたか。次の中から【1つだけ】選んでください。

【全体】

(R7 : n=355)

選択肢	R3		R4		R5		R6		R7	
	回答数	割合								
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	3	0.8%	5	1.4%	0	0.0%	1	0.3%	6	1.7%
2 知っている	10	2.8%	36	10.3%	73	20.1%	67	18.1%	115	32.4%
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	66	18.3%	96	27.4%	111	30.6%	138	37.3%	159	44.8%
4 全く知らなかった	281	78.1%	213	60.9%	179	49.3%	164	44.3%	75	21.1%
合計	360	100.0%	350	100.0%	363	100.0%	370	100.0%	355	100.0%
「ワンヘルス」という言葉を知っている方 (1~3と回答した方)	79	21.9%	137	39.1%	184	50.7%	206	55.7%	280	78.9%

ワンヘルスの認知率



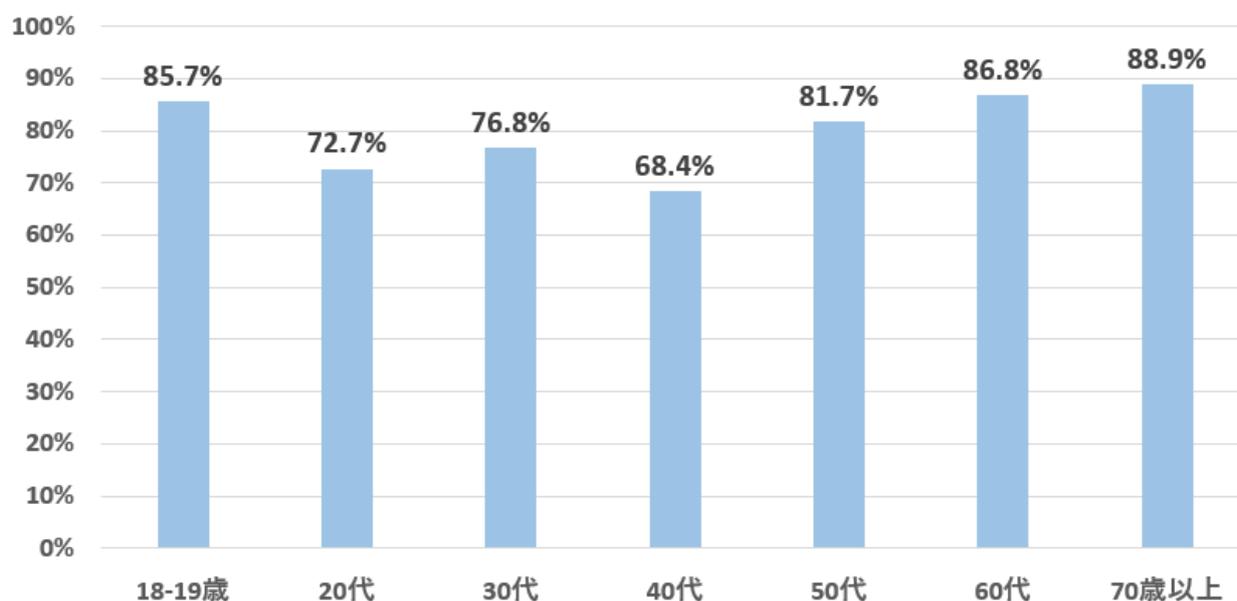
- ・調査を開始した令和3年度以降、「ワンヘルス」という言葉を知っている方の割合（認知率）は増加傾向にあり、今回の調査では前年に比べ23.2pt増加した。（R6:55.7% → R7:78.9%）

【年代別】

(R7 : n=355)

選択肢	18-19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	0 0.0%	1 2.3%	1 1.8%	0 0.0%	3 5.0%	1 1.3%	0 0.0%	6 1.7%
2 知っている	4 57.1%	10 22.7%	19 33.9%	20 26.3%	22 36.7%	28 36.8%	12 33.3%	115 32.4%
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	2 28.6%	21 47.7%	23 41.1%	32 42.1%	24 40.0%	37 48.7%	20 55.6%	159 44.8%
4 全く知らなかった	1 14.3%	12 27.3%	13 23.2%	24 31.6%	11 18.3%	10 13.2%	4 11.1%	75 21.1%
合計	7 100.0%	44 100.0%	56 100.0%	76 100.0%	60 100.0%	76 100.0%	36 100.0%	355 100.0%
「ワンヘルス」という言葉を知っている方 (1～3と回答した方)	6 85.7%	32 72.7%	43 76.8%	52 68.4%	49 81.7%	66 86.8%	32 88.9%	280 78.9%

年代別の認知率



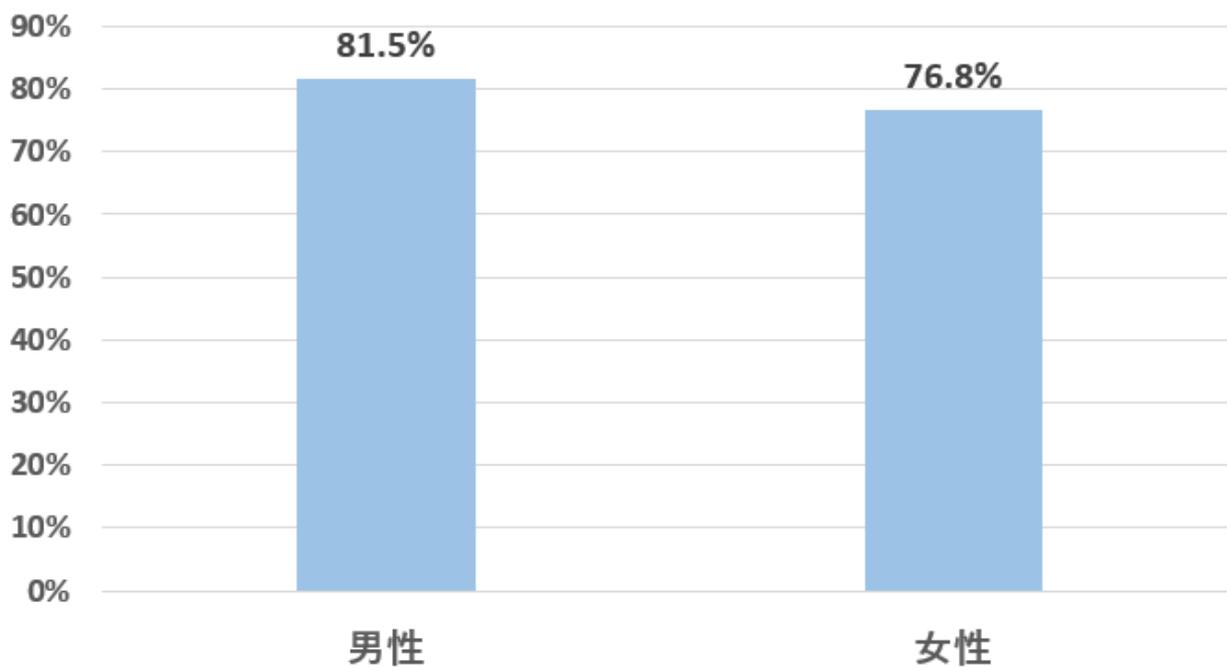
- ・年代別のワンヘルスの認知率は、18歳から19歳と50代以上が80%を超えているのに対し、20代から40代では70%前後となっている。

【男女別】

(R7 : n=355)

選択肢	男性	女性	その他	合計
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	5 3.0%	1 0.5%	0 0.0%	6 1.7%
2 知っている	58 34.5%	56 30.3%	1 50.0%	115 32.4%
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	74 44.0%	85 45.9%	0 0.0%	159 44.8%
4 全く知らなかった	31 18.5%	43 23.2%	1 50.0%	75 21.1%
合計	168 100.0%	185 100.0%	2 100.0%	355 100.0%
「ワンヘルス」という言葉を知っている方 (1～3と回答した方)	137 81.5%	142 76.8%	1 50.0%	280 78.9%

男女別の認知率



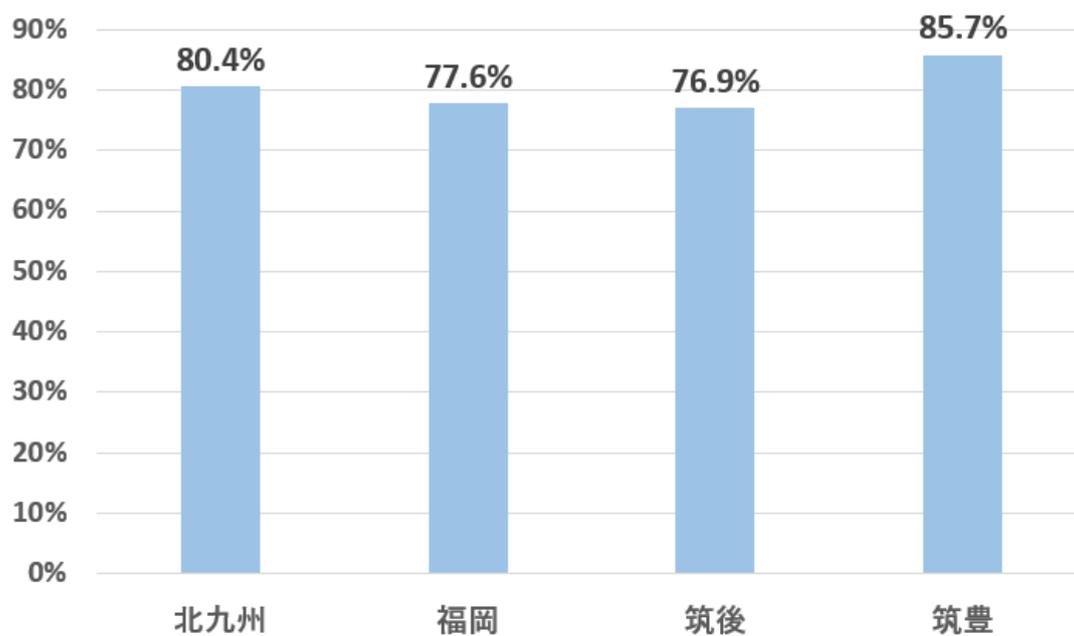
- ・男女別のワンヘルスの認知率は、男性 81.5%、女性 76.8%であり、男性の認知率の方が高くなっている。

【地域別】

(R7 : n=355)

選択肢	北九州	福岡	筑後	筑豊	合計
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	3 3.3%	3 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	6 1.7%
2 知っている	32 34.8%	54 29.5%	18 34.6%	11 39.3%	115 32.4%
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	39 42.4%	85 46.4%	22 42.3%	13 46.4%	159 44.8%
4 全く知らなかった	18 19.6%	41 22.4%	12 23.1%	4 14.3%	75 21.1%
合計	92 100.0%	183 100.0%	52 100.0%	28 100.0%	355 100.0%
「ワンヘルス」という言葉を知っている方 (1～3と回答した方)	74 80.4%	142 77.6%	40 76.9%	24 85.7%	280 78.9%

地域別の認知率



- 地域別のワンヘルスの認知率は、全体的に 80%前後となっており、大きな差はない。

問2 (問1で「1～3」を選択された方にお尋ねします。)

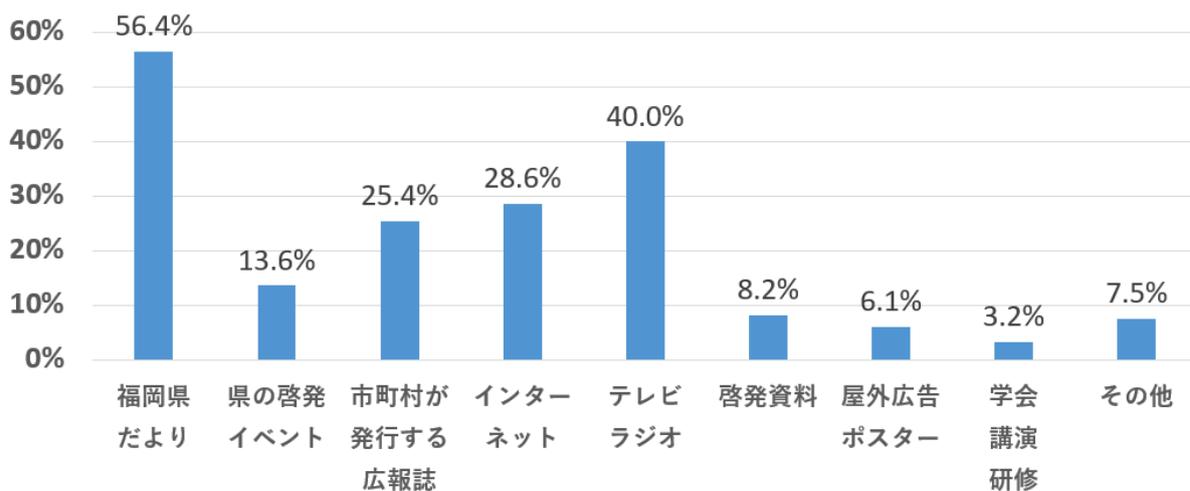
「ワンヘルス」という言葉を知ったきっかけは何ですか。次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

(複数選択可) (R7：n=280)

選択肢	R6		R7	
	回答数	割合	回答数	割合
1 福岡県だより	98	47.6%	158	56.4%
2 県の啓発イベント	24	11.7%	38	13.6%
3 市町村が発行する広報誌	42	20.4%	71	25.4%
4 インターネット(県HP、ワンヘルス推進ポータルサイト、広告など)	46	22.3%	80	28.6%
5 テレビ、ラジオ	109	52.9%	112	40.0%
6 啓発資料(ワンヘルス推進冊子、ワンヘルス教育啓発資料、チラシなど)	16	7.8%	23	8.2%
7 屋外広告・ポスター	12	5.8%	17	6.1%
8 学会、講演、研修	15	7.3%	9	3.2%
9 その他	8	3.9%	21	7.5%

※R6年度から設問と集計方法を変えたため、R6年度から掲載しています。

ワンヘルスを知ったきっかけ (R7年度)



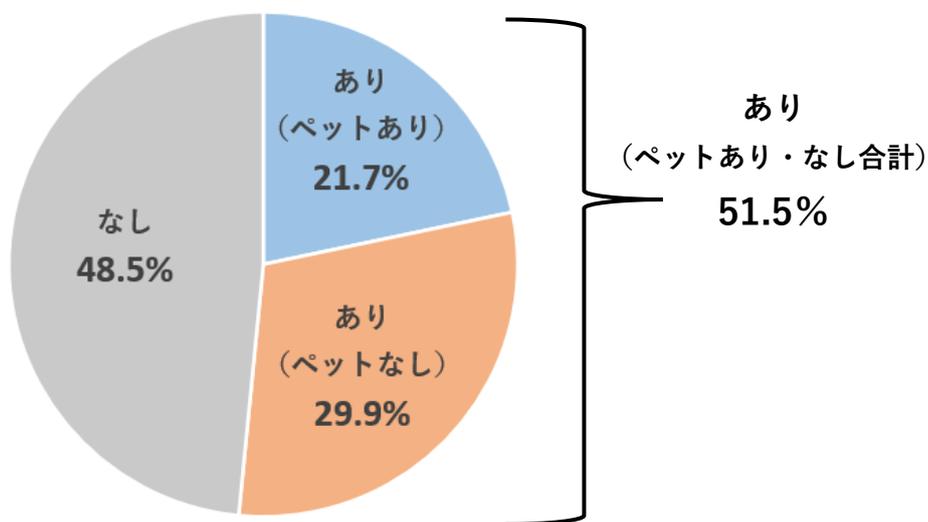
- ・ワンヘルスについて知っている人が、知ったきっかけについて、最も多かったのが「福岡県だより」、続いて、「テレビ、ラジオ」「インターネット」「市町村が発行する広報誌」の順であった。
- ・このうち、「福岡県だより」については、令和7年9月号よりワンヘルスに関する記事を毎号掲載したこと、「テレビ、ラジオ」については、10～11月に開催したワンヘルスフェスタのPRのためのテレビCMや、ワンヘルス認証のテレビCMが放映されたことによるものと考えられる。

問3 あなたは日常生活の中で、動物とふれ合う機会がありますか。次の中から【1つだけ】選んでください。

(R7 : n=355)

選択肢	R4		R5		R6		R7	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 現在、ペットを飼っており、日常的にふれ合う機会がある	82	23.4%	71	19.6%	75	20.3%	77	21.7%
2 ペットは飼っていないが、動物とふれ合う機会がある（ふれあい動物園やイベントなど）	110	31.4%	106	29.2%	115	31.1%	106	29.9%
3 動物とふれ合う機会はない（アレルギーがある、動物に興味がないなど）	158	45.1%	186	51.2%	180	48.6%	172	48.5%
合計	350	100.0%	363	100.0%	370	100.0%	355	100.0%
動物とふれ合う機会がある方 (1～2と回答した方)	192	54.9%	177	48.8%	190	51.4%	183	51.5%

動物とふれ合う機会 (R7年度)



n=355

・動物とふれ合う機会がある方は51.5%と、およそ2人に1人である。

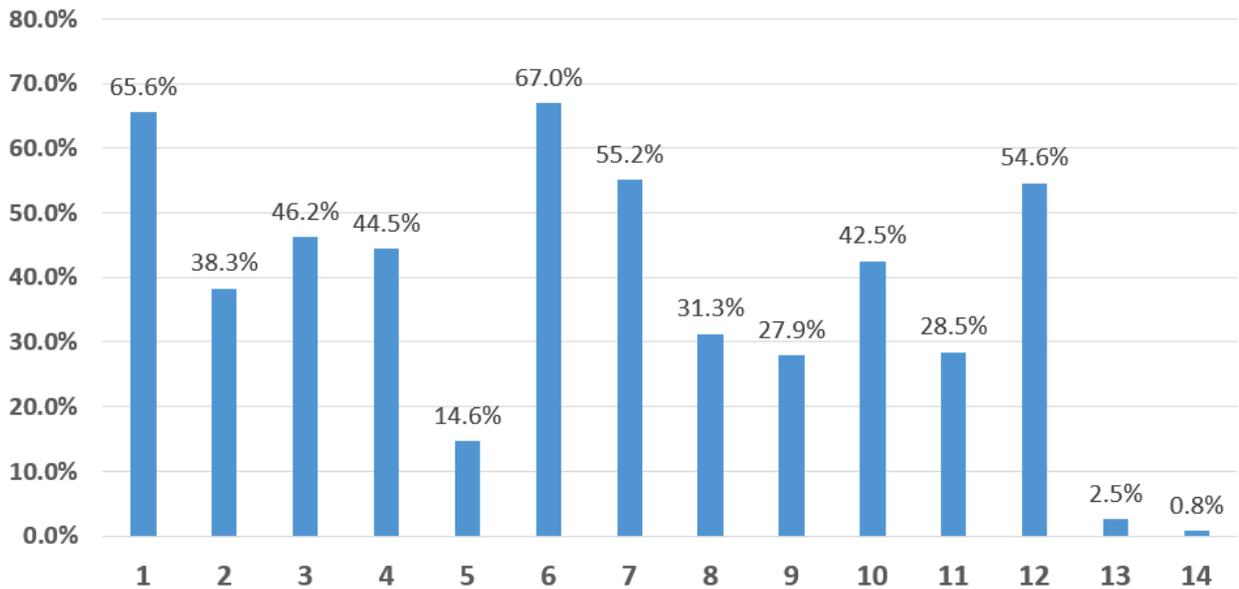
問4 県では、ワンヘルスの課題に対し、「人獣共通感染症対策」、「薬剤耐性菌（抗生物質などが効かない、または効きにくくなった細菌）対策」、「環境保護」、「人と動物の共生社会づくり」、自然や動物とのふれ合いを通じた「健康づくり」、「環境と人と動物のより良い関係づくり」を進めています。これらに関して、あなたが、日常生活の中で取り組んでいることはありますか。次の中から該当するものを【全て】選んでください。

(複数選択可) (R7 : n=355)

選択肢	R4		R5		R6		R7	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 動物に触れた後は、手洗いを 行い、清潔に保つ (人獣共通感染症対策)	252	72.0%	271	74.7%	260	70.3%	233	65.6%
2 ペットに口移しで食事を与 えるなど、過剰な接触を避け、 人と動物の共通感染症にかか ることを防止する (人獣共通感染症対策)	146	41.7%	145	39.9%	157	42.4%	136	38.3%
3 登山や里山など野生動物が 多く生息するような環境に出 かける際は、マダニなどに咬 まれないようにするため、長 袖、長ズボンなどを着用し、感 染防止に努めている (人獣共通感染症対策)	146	41.7%	157	43.3%	168	45.4%	164	46.2%
4 病院や薬局で処方された抗 生物質は、途中でやめないな ど、用法用量を守り、薬剤耐性 菌を生む要因の発生防止に貢 献する (薬剤耐性菌対策)	142	40.6%	157	43.3%	175	47.3%	158	44.5%
5 移動の際は自家用車の使用 を控え、公共交通機関を利用 し、地球温暖化の防止に貢献 する (環境保護)	55	15.7%	72	19.8%	77	20.8%	52	14.6%
6 買い物の際にはレジ袋をも らわず、エコバッグを持参し、 プラスチックごみの削減に貢 献する (環境保護)	253	72.3%	289	79.6%	268	72.4%	238	67.0%

選択肢	R4		R5		R6		R7	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
7 野生動物にはむやみに近づかない、餌付けをしないなど、適正な距離を保つことを理解している (人と動物の共生社会づくり)	202	57.7%	230	63.4%	236	63.8%	196	55.2%
8 ペットを飼う場合は、その健康管理を行うとともに、飼育環境を清潔にする、散歩中の糞は持ち帰るなど、適切に管理している (人と動物の共生社会づくり)	97	27.7%	112	30.9%	119	32.2%	111	31.3%
9 ハイキングや森林浴などにより、自然とふれ合うことで、身近な自然への理解を深めている (健康づくり)	100	28.6%	113	31.1%	101	27.3%	99	27.9%
10 食材を購入する際は、できる限り地元で生産された農産物を選び、地産地消に取り組んでいる (環境と人と動物のより良い関係づくり)	150	42.9%	163	44.9%	152	41.1%	151	42.5%
11 食材を購入する際は、低農薬など、環境負荷の少ない農産物を選ぶようにしている (環境と人と動物のより良い関係づくり)	106	30.3%	107	29.5%	107	28.9%	101	28.5%
12 買いすぎない、作りすぎない、注文しすぎない、食べきるなどを心がけ、食品ロスの削減に取り組んでいる。 (環境と人と動物のより良い関係づくり)	201	57.4%	207	57.0%	222	60.0%	194	54.6%
13 取り組んでいることはない	11	3.1%	9	2.5%	6	1.6%	9	2.5%
14 その他 (次の設問で具体的に入力してください。)	2	0.6%	3	0.8%	1	0.3%	3	0.8%

日常生活の中で取り組んでいること（R7年度）



- ・ ワンヘルスの各課題に対し日常生活で取り組んでいることの割合は、「動物に触れた後の手洗いによる人獣共通感染症対策（選択肢1）」、「エコバッグ持参による環境保護（選択肢6）」が6割以上と、高い割合を占めている。
- ・ 一方で「自家用車の使用を控え、公共交通機関を利用し、地球温暖化の防止に貢献（選択肢5）」が、14.6%と低くなっており、自家用車が生活において不可欠であることが伺える。

問5 問4で「14」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

- ・ 街路樹や公共の花壇との触れ合い。企業や民家、寺社の庭作り。地域猫の保護活動。動植物園の活用。【50代 女性（福岡）】
- ・ 子供にはなるべく動物や昆虫に触れてもらい、生き物を大切に扱うことのできる大人になるよう教育している。【30代 男性（筑後）】
- ・ 肉食をやめた。【50代 女性（福岡）】

問6 ワンヘルスについて、これまでの設問以外に意見はありますか。
ある場合は、その内容を具体的に入力してください。
(例：今後、県のワンヘルスの取組において求めることなど)

- ・ 福岡県は熱心に取り組んでいるが、県民のワンヘルスに関する認知度が低いような気がする。もっと市町村を巻き込んだ啓発活動を進めるべきではないか。
【60代 男性 (北九州)】
- ・ ワンヘルスの考えは重要だと思うが色々な要素が入りすぎて何が重要なのか分からなくなっている。
主に、人獣共通感染症についてだけに焦点を当てて考えるべきでは？エコバッグとかは間接的に繋がっているとは思いますが別のそういった運動もあるからいっしょくたにしなくてもいいと思う。【20代 男性 (北九州)】
- ・ 福岡県とよその地域でどうワンヘルスに取り組んでいるか記事を県だよりやマスメディアで見たら安心して理解出来ると思います。最近の熊の被害もびっくりしつつ理解し受け入れられ、対策が得られるのでワンヘルスがどういった物か的確に理解したいです。【40代 女性 (北九州)】
- ・ 動物に普段関わってなければなかなか難しいと思う。動物の特性等をもっと広めていく必要があると思う。【50代 男性 (北九州)】
- ・ 日々、健康に暮らしていくための必要な取り組みと思う。
【60代 男性 (北九州)】
- ・ ワンヘルス施策に莫大な予算が投入されているが、本当にそのような予算や、現在の使い道が必要なものなのか説明されていない感覚が強いです。
【20代 女性 (北九州)】
- ・ 日常生活で取り組んでいることについての設問の選択肢にあった、「ペットを飼う場合は、その健康管理を行うとともに、飼育環境を清潔にする、散歩中の糞は持ち帰るなど、適切に管理している」という取組をもっと推進してほしいです。特にふんの持ち帰りは、お願いしたいです。街中ではペットボトルに水を入れていて、電信柱に犬がオシッコをした後に水をかけるのは常識といっている人もいるのですけれども。まだまだ、ペットを飼っている人たちのマナーの向上を願います。
ワンヘルス事業といっても多岐にわたるようなので、浅く広くを狙うより、重点目標を上げた方がいいのかもしれませんが。これもワンヘルス？という感じで啓発していってもらえると浸透していく気がします。【50代 女性 (北九州)】
- ・ 横文字なので意味が覚えられないです。【40代 男性 (北九州)】
- ・ 街猫など野良猫に餌を与えてる行為を黙認している地域がチラホラ見えます。また外国人など、餌付けしないというルールを知らずに与えてるのも見られるため、認知を上げるのがいいと思います。【30代 男性 (北九州)】
- ・ ペットを飼育する場合、ルールを守っていくことを様々な媒体を通じて広報して欲しい。また、畜産など動物を生業にしている業者等は収益の追求のためにむやみに動物に薬など与えることが無いよう指導して欲しい。
【50代 男性 (北九州)】
- ・ 18年ほど前、職場でコウモリを家で育てる人がいたが、コロナ以降、危険だと思う。「人獣共通感染症」のため、その人も今では、やめたと思う。
【70代以上 男性 (北九州)】

- ・ 最近ではマダニ、セアカゴケグモ、ハチなどの被害が多くなってきているようです。最低限の危険な生き物、植物等どんなものがあるか知らしめてほしい。
【60代 男性（北九州）】
- ・ 私自身は医療従事者でもあり、ワンヘルスの言葉自体を認識しているつもりですが、一般的にはまだ言葉の意味自体が認識されていないことの方が多い印象です。そのため、まずは言葉について認知されるよう広報活動に取り組むと良いかと思います。【30代 女性（北九州）】
- ・ もっと啓発するべきでは。【70代以上 男性（北九州）】
- ・ 東北、北海道全国で熊の被害が相次いで、大変なことになっていると感じる。幸い、九州は熊が居ないが、今後、様々な野生動物との共存は身近なことと考えていく必要を感じます。【60代 女性（北九州）】
- ・ 毎年鳥インフルエンザで多数の鶏が殺処分されています。どの養鶏場でも万全の対策を取っていると思いますが、まだ盲点があるのでしょうか？不思議に思います。
全国各地でクマによる被害が出ています。農作物だけでなく人にも影響が出ています。
理由がよくわかりませんが、徹底的に駆除をせず、森深く追い払うような対応がとられています。動物保護の観点からの処置なののでしょうか。信じられません。
日常生活が脅かされている人々に同情します。【70代以上 男性（北九州）】
- ・ 最近クマ出没で問題だが自然環境破壊しすぎて里山減少が原因だ。金儲けのため開発し土地販売を辞めるべきだ。【60代 女性（北九州）】
- ・ 地域で取り組む課題と考えます【40代 男性（北九州）】
- ・ 無駄な予算を使わず身の丈に合った活動、疑念を持たれないような活動をしてほしい。【50代 男性（北九州）】
- ・ ペットや家畜を除き、野生動物の生息域を侵さない、荒らさない。野生動物にとって人間との共生やふれあいは、必ずしも、望ましいものではない。
【60代 男性（北九州）】
- ・ 継続的な活動が必要だと感じているので、PRも引き続き、多くの人が目にする、知る可能性のあるもの中心に続けていくことが大切だと思う。
【50代 女性（北九州）】
- ・ 全く性質の異なる政策テーマ（人獣共通感染症対策、薬剤耐性菌、環境保護、動物愛護、観光振興、健康づくり等）を一つの「ワンヘルス」というパッケージに詰め込んでいる点に強い違和感を覚えます。SDGsのように、「何でもかんでもくくってしまう」姿勢は、かえって問題の本質を曖昧にし、現場の課題解決にはつながりにくいのではないのでしょうか。
例えば、地域猫活動は「動物との共生」や「癒しによる健康づくり」とくくれるのかもしれませんが、現実には餌付けによって周辺住民の敷地に糞尿被害が出たり、砂場がトイレ化したり、ノーリードの猫がごみを漁ったりするなど、公衆衛生・生活環境の面で「一見優しい善行」が深刻な課題を引き起こしています。こうした状況は、人獣共通感染症のリスクにも直結するはずです。
「共生」や「ふれあい」などの理想的な言葉だけで語るのではなく、野生動物との線引き、ペットの適正飼育、地域トラブルの現実にも正面から向き合った上で、現場目線での実効性ある施策設計を求めます。
また、経済的に余裕のない家庭では、環境や動物に配慮した行動（地産地消、公共交通機関の利用、環境負荷の少ない農産物の選択等）が難しいのが実情で

す。「行動変容」を求める前に、まず県が住民の生活基盤を支える政策（物価対策、雇用、福祉など）を誠実に進め、住民が協力できるだけの余裕を取り戻すことが先決だと思います。【30代 男性（福岡）】

- 世界的に One Health という言葉が定着していたとしても、カタカナでの「ワンヘルス」はあまり馴染みがない県民に定着していない言葉だと思います。ワンヘルスの中身にある環境保護、環境と人と動物のより良い関係づくり、人と動物の共生社会づくり、地産地消などはそれぞれの項目自体は現在実践されているものがほとんどで、薬剤耐性菌や人獣共通感染症についてはあまり知られていないことだと思うので、その部分に関しては周知が必要だと思いますが、わざわざワンヘルスということ強調しなくても良いのかなと思います。むしろ、県民にとってのワンヘルスは特定の人物のやりたがっている政策や税金の無駄遣いといった悪い印象の方が強くなっているのではないかなと思います。

もっと親しみやすいわかりやすいフレーズに変わるとまた変わってくるかもしれません。【30代 男性（福岡）】

- 告知が全般的に弱い。もっと打ち出し強化して意識づけをしてほしい。【60代 男性（福岡）】
- 将来的にも取り組んでいく課題だと思います。【60代 男性（福岡）】
- 義務教育で周知する。【50代 男性（福岡）】
- 人と動物の健康に係る環境保護や環境保全に対して福岡県や自治体（ex. 福岡市）が取り組む具体的なプランが明瞭でない。【70代以上 男性（福岡）】
- 内容をもっと周知したほうがよい。【30代 男性（福岡）】
- ワンヘルスという言葉は度々聞くが、正直なところ、その定義がよく分からない。人、動物、自然とかなり広い範囲を対象にした取り組みのようだが、具体的なイメージがない。【50代 女性（福岡）】
- ワンヘルスという言葉は詳しくは知らなかったが、今まさにクマ問題も関連している問題だなと思いました。（九州にはクマはいませんが）人間と動物、そしてその生息環境（自然環境）の健康問題、生息環境の保全など、とても重要な取り組みだと思うので、広報活動も積極的に行って、一人でも多くの方に考えてもらいたいと思います。【50代 女性（福岡）】
- 人と動物の共生と同程度の強度で、ペットの糞尿の始末をしない飼い主に閉口しています。特に朝方のペットを連れた散歩族に目に余るものがあります。エゴの固まりのような方々が多い。【70代以上 男性（福岡）】
- 知事選で吉田さんも仰ったように「行政の私物化」だと私も思います。大変申し訳ありませんが、ワンヘルス事業に反対です。【40代 男性（福岡）】
- ワンヘルスについて、知らないまま進められており、またよくわからないモニメントにもかなりの税金が投入されていると後に知りました。近年、全国の自治体において都道府県民を置いてけぼりにした政策が行われ、またそれに関して声を上げて役人が反応しないという現状に甚だ疑問を感じております。ワンヘルスに限らず、政策案が出た時点でしっかり内容を県民に届くよう工夫し、それに関して県民の声をきちんと吸い上げ反映させる努力をすることが自治体の本来のあるべき姿だと思います。【30代 女性（福岡）】
- ワンヘルスの定義が広すぎるのではないのでしょうか。会社やプライベートで話題になったことはありません。ひとつひとつはとても大事なことだと思います

ので、言葉に惑わされず、地道に啓発活動を続けてほしいし、我々も日常生活で取り組んでいきたいです。【50代 女性（福岡）】

- ・ ワンヘルスは聞いたことがあったが、人の健康のことかと思っていて動物も含めたものであることを知り勉強になった。動物との触れ合いはないので関係ないかと思っただが、地産地消やエコバッグの持参など普段行っていることがワンヘルスの取り組みであることをはじめて知った。一人一人の行動が世界で合意されている取り組みにつながるということをより多くの人が認識できるようワンヘルスの概念をもっと広く浸透させられるとよいと思う。

【40代 女性（福岡）】

- ・ 動物の事なので、イベント等あれば楽しいと思う。【60代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルス、よい取り組みなので知名度が上がるような活動があるといいなと思いました。【40代 女性（福岡）】
- ・ 子どもと暮らしていると、動物や自然に触れる機会は思っている以上に多いものです。動物園や水族館、油山のような自然公園、そして近所のペットショップなど、子どもが興味を持つ場所はたくさんあります。こうした場所で「動物との正しいふれあい方」や「自然と人との関係」をテーマにした学びの機会がもっと増えたらいいなと思います。ただ、実際にイベントを開催する側の負担を考えると、頻繁な実施は難しいという現実も理解しています。

そこで、もっと無理のない形でワンヘルスを広げる工夫があってもいいのではと思います。たとえば、動物園や水族館に行ったときに、展示パネルやQRコードで「人と動物の健康を守るちょっとした行動」などを紹介する仕掛けがあれば、親子で自然と学べます。デジタルサイネージや短い動画でもいいですし、混雑時でも立ち止まらずに見られる工夫があれば、現場の負担も少ないと思います。

また、県の広報やSNSなどで「家庭でできるワンヘルス」をテーマに、家庭菜園・地元野菜の選び方・ペットとの衛生的な接し方などを紹介するシリーズがあると、参加型で広がると思います。保育園や小学校でも、絵本やシールラリー形式など、子どもが楽しみながら自然と関心を持てる教材があると嬉しいです。

親として感じるのは、「自分の暮らしと環境・動物がつながっている」という実感がないと、なかなか行動につながらないということ。ワンヘルスは専門的な言葉ですが、家庭では「手を洗う」「自然を大事にする」「動物を思いやる」といった、日々の行動の延長線にある考え方だと思います。

県が進めるみやま市のワンヘルスセンターの取組はとても意義があり、全国的にも誇れると思います。その中で、こうした家庭や地域レベルでのちょっとした実践を紹介・発信していくことで、「自分たちにもできる」という共感の輪が広がるのではないのでしょうか。

ワンヘルスを「特別な活動」ではなく、「日常の中の小さな選択」として根づかせるための仕掛けを、ぜひ県全体で進めてほしいです。

【40代 男性（福岡）】

- ・ あれもこれでも盛り込み過ぎのような感がある。福岡県での今年度の重点課題とか、第一フェーズでは何、第二フェーズでは何と段階的な目標を立てるなどして、目標や達成度の明確化や視覚化を心掛けて欲しい。

【60代 男性（福岡）】

- ・ 「ワンヘルス」の意味を何度か聞くのですが、今一つ良く理解ができていません。なにか冊子などでじっくり読むことが必要なのでしょう。冊子化したものは身近なところで入手できるようにして欲しい。【70代以上 男性（福岡）】
- ・ イオンなどの大型施設で啓蒙活動をします。【70代以上 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスについては今まであまり意識していませんでした。
【70代以上 男性（福岡）】
- ・ これからの社会に必須の視点だと思います。人と動物、環境を切り離さず整えることで、安心して暮らせる未来につながると思います。シンプルですが、本質的な考え方です。【50代 女性（福岡）】
- ・ 他の地域でのワンヘルスの取組みを知らないの、福岡県がどのくらい力を入れているのかわからないでいます。比較する材料をテレビのニュースや報道で探しているところなので、そういう面を県だよりなどで知らせてもらえるととても理解が進むと思います。【50代 男性（福岡）】
- ・ SNSの力はすごいと思うが、どうしてもいきすぎる点が目につきます。必要最小限の生活からすれば200%の増々でやりがち。【40代 女性（福岡）】
- ・ ペットについての飼育者としての学習は学校教育にも取り入れてほしい。特に命の観点から、他者、人も動物も植物も地球の命を守ることが自分の命を守ることにつながるということが体感できる機会が老若男女問わず身近になって欲しい。
災害時の命の守り方は『人』だけでなく、『すべての生きとし生けるものの』権利を守ることだ。健保で保障されてもいる。【70代以上 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスが県の行政施策として、急に取り上げられたことへの背景が今一つ見えないところがあります。【70代以上 男性（福岡）】
- ・ 何をおこなっているのかよく分からない。本当に資金を投入してまですべき事だと思えない。【30代 女性（福岡）】
- ・ 予算などは計画的に使ってほしい。【60代 女性（福岡）】
- ・ 人獣共生の理念には共感しますが、やはりそこには守るべき境界があると思います。すなわち昨今報道を賑わせているクマの人里出没や、福岡市内では野生のサル出没など、ヒトに危害を加えかねない事態が頻発しています。ペットを飼うにしろ飼い主以外の人から見れば脅威を感じる場合もあります。うまく共生していけるような風土作りに期待しています。【60代 男性（福岡）】
- ・ ワンヘルスセンターが増えていくのは正直困る。
私は動物が得意ではないので、あまり行きたい場所ではない。
【30代 男性（福岡）】
- ・ 子連れだと公共交通機関の移動がなかなか難しいのが現状です。
【40代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスは、県民の身近にあることを啓発してほしい。
【30代 女性（福岡）】
- ・ 正直税金の無駄遣い、怒りさえ感じる。
福岡県はお金が余っているのか、200億円は別の用途に振り向けるべき。
【50代 男性（福岡）】
- ・ 言葉は最近よく耳にしますが内容が多岐な事もあり具体的にどんな概念を指しているのか掴めていません。学びやすく教育に使いやすいよう理念や実際の活動を分かりやすく解説した漫画教材があるといいと思いました。
【50代 女性（福岡）】

- ・ わからなかったのでワンヘルスの成り立ちや、国・福岡県の取り組みを見ました。ワンヘルスは理解はできますが、まだまだ言葉が追いついてない。日々の生活の中で自然といつの間にか取り組める、取り組んでると言うような事になれば子供達も参加しやすいと思います。まずは、学校や身近な所でのワンヘルスと言う言葉から入らないといけないと思います。【60代 女性（福岡）】
- ・ 気候変動の影響で、これまでの生態系のピラミッドが今後更に変わる可能性があると思っています。
環境保護として、庶民としてやれる事はサステナブルな活動をする事しか無いのでしょうが、合わせて今回のようにワンヘルスをする事で、個々人の自己防衛も必要なかな思いました。【40代 男性（福岡）】
- ・ ワンヘルスという言葉も意味も知らなかったので今回をきっかけに知ることができ良かった。クマやイノシシのニュースが多く、やむを得ず駆除しなければなりません、人と動物との共生社会や両者の健康を守る意識は忘れてはいけません。【40代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスという言葉を知らない、理解してない県民が多いと思う。啓蒙活動の強化をお願いします。【70代以上 男性（福岡）】
- ・ ワンヘルスと一言でいっても、かなり広範囲に該当し、なかなか実感がないのが事実。
絞りこんだ取り組みのほうが、わかりやすい気がする。【60代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスで具体的に何をするのか今ひとつわからない。別に特別に事業を立ち上げなくても、それぞれが必要な施策を連携して行えばいいのではないかとと思う。箱物を（みやま市に）巨費を投じて作る必要はない。【50代 女性（福岡）】
- ・ 人と動物、環境の健康を一体で考えるワンヘルスの理念は非常に重要だと感じます。今後は、県民へのわかりやすい情報発信や教育機会の充実、災害時や感染症対策における連携強化を期待します。多様な立場の声を反映した、実効性ある取組をお願いします。【50代 女性（福岡）】
- ・ 現在、ペットと同居している家族も多いと思います。
県営住宅なども、共存できる部屋があれば経済的にも助かる方があるのではと。また、里親になりたいくてもなれない家族もなれる、そういう取り組みもしてほしい。【60代 女性（福岡）】
- ・ 馬など触れ合える場所を提供してもらいたい。馬は、優しく、撫でると人間にもいい効果がある。【50代 男性（福岡）】
- ・ 人間活動も環境のひとつなので、利己主義的な考えは無くすべき。
【70代以上 男性（福岡）】
- ・ 人と動物、環境の健康がつながっていることをもっと広く知ってもらいたいと思います。
学校教育などで子ども向けの啓発を進めてほしいです。
身近な例（感染症・災害・ペットとの生活）を紹介すると理解が進むと思います。【40代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルス自体に必要性を感じないです！税金を投じる意味がわかりません！この費用を全て子供の福祉や障害、お年寄り、環境保全に使っていただきたい！！【40代 女性（福岡）】
- ・ 動物と人間の共存する上で、ペットを持つことで、理解の促進や思いやりの感情を持つことの効果はあり、否定するものではないが、人間と動物の距離が近くなりすぎており、感染症など公衆衛生上では、今後、かなり警戒感を持って

施策を遂行していく必要がある。行政として、公衆衛生の維持を第一に進めてほしい。【50代 男性（福岡）】

- ・ 自然環境と動物の問題が、ごちゃ混ぜになっている印象で分かり難い。自然環境に絞っていいと思う。【60代 男性（福岡）】
- ・ 福岡県だけ実績づくりの為かワンヘルスのテレビCMを流しているが、あのCMではワンヘルスがどういうものか全く伝わらない、作る側の自己満足でその制作費、放映料、税金を別のものに使って欲しい。【50代 男性（福岡）】
- ・ ペットの飼育環境も気になるが、家畜の飼育環境も気になっている。糸島では牛の畜産をしているようだが、放牧されている姿は全然見かけない。たまたま見ていないだけかもしれないが、畜産の飼育環境が適正に行われているかが気になる。【50代 女性（福岡）】
- ・ 「ワンヘルス」に、良いイメージがない。【50代 女性（福岡）】
- ・ あまりよくわかりません。なぜその取り組みを行っているのか。なぜ、急にワンヘルスと叫び出したのか。ここ数年ででてきた文言だと思います。主旨はわかるのですが、なぜ全国ではなく、福岡県だけがこれに力を注いでいるのかを説明してもらいたいです。【50代 男性（福岡）】
- ・ もっとPRして欲しい。【60代 男性（福岡）】
- ・ これからは大切だと思います。【50代 男性（福岡）】
- ・ 具体的に福岡県で発生している獣害動物の被害等に関する設問があっても良いのではないかと思います。
例えば、猿、イノシシ、アライグマ等の住宅地区への登場、侵入、住みつき等はたびたび報道されています。これらがまさにワンヘルスの重要性につながる実例なのに、ここで何も設問がないことに違和感を感じました。
【60代 女性（福岡）】
- ・ 一人ひとりの意識が世界日本を変えていくものだと思います。
【60代 女性（福岡）】
- ・ 広く県民に知ってもらえるような 取り組みをやって欲しいです。
【60代 女性（福岡）】
- ・ 里山でなくても、もっと近くにマダニは潜んでいる。道路愛護デーに草取りをしている場合は、そのあり方を早急に見直すべきだと考える。（人や動物、環境に配慮した除草剤をまくなど）【40代 女性（福岡）】
- ・ 問9（日常生活で取り組んでいることについての設問）にあった選択肢を見ても、ワンヘルスにあてはまる内容が幅広であり、何から何までがワンヘルスの対象なのかよく実態がつかめなところがあります。問9の選択肢の行動で日ごろからやっているものは複数ありますが、実際のところワンヘルスを意識して実施したものではありません。ワンヘルス推進の取り組みとその効果の因果関係や影響をはかるのが難しいような感じがしています。【30代 男性（福岡）】
- ・ 率直に言って、あまりよいイメージはない。
動物は大切だと思いますが今はもっと、こども施策に焦点を当てるメッセージを伝えるべきだと思います。【40代 男性（福岡）】
- ・ 新型コロナウイルスのワクチンによる健康被害増加のため接種の中止。
【10代 男性（福岡）】
- ・ 野生動物の問題や多頭飼育の問題など、今、動物に関する課題は多いように思います。ネットなどでそれらの問題を知る機会も多くなりましたが、専門家の

意見というのはあまり聞けないというのが印象です。そういった取り組みが増えていくと理解も増えていくと思います。【40代 女性（筑豊）】

- ・ 野良猫にも命があるのでむやみに処分しない取り組みを国をあげてやってもらいたい。【50代 男性（筑豊）】
- ・ 釣りを趣味としている人へのゴミ意識の向上。海洋環境破壊に繋がっている意識が低い人には釣りをさせないような取り組みが必要なほど酷い（食品の包装やタバコ、糸や仕掛けなど）。自然と向き合いながら、きれいに釣りを楽しんでいる人が、それらの人の影響で釣りができなくなるのは避けたい。

【40代 男性（筑豊）】

- ・ 福岡県主導で展開している「ワンヘルス」ですが、今後、一般の人々の理解と行動が重要だと思います。全国、世界へ啓蒙活動を広げるためには、愛犬家、愛猫家へのアプローチが有効だと考えます。【60代 男性（筑豊）】
- ・ 聞いたことのない言葉が急に公に出てきて、実施状況、行う意味、何もわからず言葉だけが広がった印象。そのための県の予算も少くない額で計上されていると思われ、ずっと疑問を感じている。【50代 女性（筑豊）】
- ・ ショッピングセンターで勤務しているが、商品を手前から取らず奥から奥から引っ張り出して購入する方がほとんどである。商品棚は開店して数分で乱雑状態。世代には関係なく高齢者が特に多い。この為に賞味期限切れで廃棄する量が半端ない。また、整頓する店員の労力もふえる。正直、社会に浸透していない。【60代 男性（筑豊）】
- ・ 知事がPRされていますが地元では認識や理解度が低いと感じます。

【70代以上 男性（筑豊）】

- ・ 動物と人間との距離のバランスの大切さはもっと真摯に向き合い考えるべきである。

昨今、熊による人間への襲撃が相次いでいるが、外国人による山間部へのゴミの放棄や、動物たちの生息地である山間部への開拓事業などが理由となっていることを忘れてはいけない。【30代 女性（筑後）】

- ・ 県民に対する認知活動をもっと積極的に行っていった方がいいと思います。十分に取り組みの意義が伝わっていないように感じています。

【60代 男性（筑後）】

- ・ もっと周知したほうが良いと思いました。【40代 男性（筑後）】
- ・ もっとアピールをしていかないと広まらないと思います。

【40代 男性（筑後）】

- ・ 地元みやま市にワンヘルスの施設が移転するので期待している。でも田舎すぎて太宰府から来られる方は、がっかりしているのではと思う。地域の活性化につながればよいと思う。【50代 女性（筑後）】
- ・ ブランケットや扇風機を持参することで、夏、冬でもアイドリングを減らす。

【40代 男性（筑後）】

- ・ 知事肝入りの政策とお聞きしていますが、そこまで必要なものか疑問です。ワンヘルスという言葉が今でもピンときません。【50代 男性（筑後）】
- ・ 筑後市で行われたワンヘルスのイベントに行きました。高校生の学習発表や出店など若い頃から関心を持つことは大切だと思います。とても素晴らしい取り組みだと思います。【40代 女性（筑後）】
- ・ 環境について関心がある自分ですら『ワンヘルス』という言葉が知らなかったもので、世間の認知度向上に努めて頂きたい。【30代 男性（筑後）】

- 我が家の飼い猫は3匹とも、保護猫である。知り合いが個人的なボランティアとして長年「保護猫活動」を行っている。当然、無償である。しかし、かなり経済的な面や、保護猫を引取って飼ってもらえる家庭の確保の面など、ご苦労していることを知っている。行政として、何かしらの援助ができないのだろうかと感じる。【60代 女性（筑後）】
- 事業の必要性は理解するが、正直なところ福岡県が特に力を入れて取り組む理由が今一つ分からない。【50代 男性（筑後）】
- ワンヘルスは分かりにくいところがたくさんあるため、一体どういうことなのかを解説する場が必要だと思う。
今回説明を読んでも具体的な部分がないので、分かりにくかった。
【20代 女性（筑後）】
- ワンヘルスということばがイメージと違う。変えたほうがいい。
【60代 男性（筑後）】
- 人と動物の双方に感染する感染症について、まだ認知度が低いように感じるので、どのような感染症があるのか周知の徹底を図っていきべきだと思います。
【60代 女性（筑後）】
- どのようなことかまだ広まっていないと思うので、もっと身近に触れる機会を増やしてほしいです。【70代以上 男性（筑後）】
- 現在、熊による人的被害に顕著に現れているが、熊や鹿等の鳥獣の個体数の管理が疎かになっている。
さらに、都市部におけるカラスによる人的被害も発生している。鳥獣保護のあり方を抜本的に見直す必要がある。【60代 男性（筑後）】
- みやま市では、広報や学校などでも教育がなされており、ワンヘルスの理解が他の市町村よりはできていると思う。【40代 女性（筑後）】